様式1

令和5年度　学校評価表（第Ⅰ期：当初～前期）

学校教育目標	心豊かに　たくましく生きる長江っ子の育成			尾道市立長江小学校
a　ミッション	○質の高い教育研究によって，実践を積み重ね，児童の知と人間性を育むこと ○（スクールミッション）主体性・協働性を育む小中連携教育を通した探究的な学習の推進	a　ビジョン	○夢と志をもち，学び続ける児童を育てる学校 ○教職員が育ち，その実践によって期待と願いに応える学校	

評価計画							自己評価				学校関係者評価				改善計画
領域	視点	b 中期経営目標（R3～R5）	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
児童の育成	学力	新学習指導要領の「育成すべき資質・能力の三つの柱」をバランスよく育成する。	○知識及び技能の定着 ○論理的な思考に基づくものの見方・考え方の育成 ○かかわり合って課題発見・解決しようとする態度の育成	児童が自身の資質・能力を自覚することができるルーブリックを活用した振り返りの場面を計画的に設定するとともに，振り返りを生かして単元の改善を進める。	資質・能力の高まりを自覚できる児童の割合（ルーブリック・振り返り）	85%	63%	74%	C	・ルーブリックを活用した児童の振り返りと教師評価を比較すると，資質・能力の高まりを正しく自覚できている児童の割合は６３%だった。児童が資質・能力の高まりを自覚できる単元，授業の改善に振り返りを生かす必要がある。 ・資質・能力が発揮される場面や教科同士のつながりを教師が意識するとともに，児童にしめすことで，資質・能力を「活用・発揮」できたと回答した児童は８７%だった。今まで児童にとって無意識だった教科同士のつながりを「国語で学習したことが使える」「総合で身に付いた資質・能力を生かそう」と意識できるようにしていく。	○			・「資質・能力の高まりを自覚できる」の項目，の8月の達成値の低さが気になるが，2月期における改善度に期待したい。 ・個別の指導にも力を入れて，一人一人の力を見取り，学力の保証をしてほしい。	・振り返りを児童個人の自己評価で終わらせるのではなく，学級全体に還元し，学習の調整に生かせるようにする。特に高学年においては，児童が主体となって活動内容を調整できるようにしていきたい。 ・教科同士のつながりや学習内容と児童達の生活とのつながりを明確にし，児童と共有することで，学習した内容や学びのすべ（学び方）を活用し，学んだことを生活の中で生かせるようにしていく。
				資質・能力が発揮される場面や教科同士のつながりを年間指導計画やカリキュラムマップで明確にするとともに，児童がそれらのつながりを意識できるように促す。	身に付けた資質・能力を「活用・発揮」できた児童の割合（児童アンケート）	85%	87%	102%	A						
	生き方（規律・社会性を含む）		○人も自分も大切にする態度の育成 ○自己を客観的に見つめ生き方について考えようとする態度の育成	長江小文化の「相手を思いやる」ことが学校生活や地域で実践できるよう，個々の目標設定と行動の改善を促す。	自他を大切にする行動について，自ら進んで取り組んだ児童の割合（児童アンケート）	85%	94%	110%	A	・自分で目標を立てることで，児童一人一人が自分の目標に向けて取り組むことができ，二重丸の割合が月ごとに増加した。目標が達成できなかった際に校内で実態などを交流し、主体的な行動がとれるような手立てを考えていく。 ・「キャリア・ログ」でたてた目標と個人目標をリンクさせ，常に一つの目標に向け，取り組むことができるよう意識させた。また、毎月，目標に対して自分を振り返る時間を全校で設定し，自分の変容を見つめることを習慣化した。今後、自己評価のみではなく、他者評価も取り入れ、より意識を高めさせていく。	○			・子供たちが自分のことを自分で考えられるようにしてほしい。変わりゆく社会の中で家庭の教育力にも課題が感じられる。学校でやること，家庭でやることを保護者にも伝えていけるとよい。	・児童自らが気付いて行動できるよう，学校全体で肯定的な声かけをしていく。 ・『「相手をおもいやる行動」をすることでどんないいことがあったか。』という視点で振り返えらせることで，相手をおもいやる行動をすることへの価値に気付かせる。 ・お手本となる行動を具体的に示していく。 ・他者評価を取り入れ，客観的な評価ができるようにしていく。 ・行事等でも自分の成長をふり返ることができるよう，ふり返り朝会を活用し組織的に取組んでいく。
				自己の生き方についての振り返りを充実させ，目指す姿に近づけるようにする。	自己の変容を自覚した児童の割合。（児童アンケート）	85%	86%	101%	A						
	体力・保健		○自分の体力と健康について，主体的に高めようとする態度の育成 ○正しい知識をもって自分の体力，健康について考える態度の育成	楽しく，安全で効果的体力向上をねらいとした体育科及び授業以外での体力つくりの推進。	体力向上について，自ら進んで取組んだ児童の割合。（生活ふり返りカード）	85%	84%	98%	B	・６月の肯定的評価９２%だったが，７月に８４%に下がった。これは，７月に入り猛暑日が続き，熱中症の予防のため，外遊びの機会が減ったことが考えられる。 ・生活リズムについては「早ね，早起き，朝ごはん」では６月は肯定的評８６%，７月は同じく８６%だが，自ら進んでできた児童の割合が８%増えており，自分の実態から目標を設定し行動の改善ができた児童が増えていると捉えている。 ・体力については，本年度の新体力テストの結果，男子は握力・立ち幅とび・ボール投げの3種目，女子は・50m走・ボール投げの2種目が県平均を下回っていた。	○			・気候が変化してきており，暑さのために外での遊びや体育科の学習が制限されることがある。学校で環境を整え，子供たちが安全に運動できるようにしてほしい。	・ACP（アクティブチャイルドプログラム）を授業に導入できるよう，体力向上についての教職員研を修計画している。※体力低下の改善を図るための，遊びを中心とした運動。 ・生活ふり返りカードや，メディアアンケートの結果から，「睡眠」について知識と関心を深めるよう保健指導などを実施し，目標設定や行動の改善を促す。
				健康の保持増進についての知識と関心を高め，自分の実態から目標を設定し行動の改善を促す。	生活習慣の改善に取組んだ児童の割合。（生活ふり返りカード）	85%	86%	101%	A						
学校への信頼獲得	対応・発信	保護者，地域，さらには教育行政の期待を把握し，それに応える。	○ 情報を共有し，行動を揃え，組織的な対応をする学校組織の構築 ○ 客観的データに基づき，ＰＤＣＡサイクルで改善を進める体制の確立	家庭・地域連携，懇談会，アンケートの実施等により，保護者や地域の思いや願いを把握し，校務運営の改善充実に生かす。	保護者の信頼度・満足度（保護者アンケート）	90%	100%	111%	A	・保護者アンケートの結果より，目標値９０%に対して達成値は１００%であった。 運動会での保護者アンケートでは、体育参観日ではなく4年ぶりの運動会という形での開催で、全学年が参加し、子供たちの頑張りを保護者に観覧してもらうことができた。 ・報告、連絡、相談を徹底し、組織的な対応を進めている。最後まで児童、保護者目線の寄り添った対応を行っていく。	○			・小学校とPTAの取組み方をみると，自分たちの意見を取り入れて取り組んでいることがよく分かる。今の取組を続けながら，どんどん変えていくことにもチャレンジしてほしい。	・学校での情報をホームページ等で家庭に提供していく。保護者との連携を密にして，組織的に思いや願いをしっかり受け止め，一人一人のニーズに応えられるように，改善点は組織的に対応し，長江小学校で伝統的に培われた教育文化をもって取り組んでいく。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。